



# 現場レポート

ソウル事務所

## 平昌冬季五輪体験記

(一財)自治体国際化協会ソウル事務所 所長補佐 山下 将史 (宮崎県派遣)、菊池 さやか (茨城県派遣)



競技場での様子 (菊池所長補佐/山下所長補佐)

### 「平和五輪」を掲げて

平昌 (ピョンチャン) 冬季五輪は、江原道 (カンウォンド) の平昌、江陵 (カンヌン)、旌善 (チョンソン) にある、全 13 の会場を舞台に 2 月 9 日から 25 日までの 17 日間、102 個の金メダルを巡り熱い戦いが繰り広げられました。

韓国での冬季五輪開催は初めてで、アジアでは、1972 年の札幌大会、1998 年の長野大会に続き 3 回目となりました。

平昌五輪の組織委員会によると、92 개국・地域の選手 2,920 人が参加したとのことで、参加国・地域数、選手数ともに冬季五輪としては過去最多となりました。

また、今大会では、韓国と北朝鮮がアイスホッケー女子で五輪史上初となる南北合同チーム「コリア」を結成し、韓国 23 人と北朝鮮 12 人の計 35 人の選手が、朝鮮半島旗を描いたユニホームを着て試合に臨むなど、朝鮮半島の緊張を緩和に向かわせる「平和五輪」が、テーマとして大きく掲げられていました。

### チケット・交通手段の確保

五輪組織委員会は 118 万枚のチケットを準備し、そ

の 90 % に当たる 107 万枚を総販売目標枚数に掲げていました。

第 1 次チケット販売 (オンライン販売のみ) が、2017 年 2 月から開始され、

日本語対応のサイトは当初なかったものの、外国人向けのサイト (英語) で難なく購入することができました。

1 次販売は抽選方式で行われ、フィギュアスケート等人気の高い競技の取得倍率が何十倍にもなる一方で、全体では 6 月までの販売枚数が、目標の 21.5 % しか売れていないという事態が生じていました。しかし、後述する韓国での盛況等もあり、最終的には目標を超える 108 万枚の売り上げを達成しました。

チケットを購入できたので、次は会場へ向かう交通手段、現地での移動手段を調べました。在大韓民国日本国大使館が発表した五輪に関する注意喚起などをもとに、現地での情報はおよそ把握することができましたが、現地でのシャトルバスの運行状況や駅から会場までのアクセス、宿泊施設の値段については、情報が錯綜しており直前まで分からないことが多くありました。この中で一番苦労したことは、ソウルから現地に向かうための交通手段の確保でした。

韓国政府は、ソウルから 2 時間で会場の最寄り駅まで行くことのできる韓国的高速鉄道「KTX 京江線」(ソウル～江陵) を 12 月 22 日から開通させ、座席の予約販売を 12 月 1 日から始めました。しかし、ソルラル (韓国の旧正月) 前後の期間 (2 月 11 日～17 日) だけは、1 か月前からでなければ予約ができなかったことから、その期間の予約が殺到する事態となりました。私達も予約が開始された日の朝 6 時ちょうどから手続きを開始し



1 次販売にて購入したチケット

たのにも関わらず、「手続き開始まで1万人待ち」という絶望的な状況を味わいました。約1時間後に運良く座席を予約することができましたが、競技のチケットはすでに買ってあるのに、競技場まで行けなかったらどうしようと、不安だった方も多かったのではないかと思います。



実際に乗車した五輪仕様のKTX

## 競技場への移動

現地の駅に到着してから競技場までは、案内板が適切に設置されていたこと、ボランティアスタッフが多数配置されていたこと、シャトルバスが途切れることなく運行されていたこともあり、特に問題なく移動できました。スキージャンプとスピードスケートが開催される競技場間を、シャトルバスを3回乗り換えて移動しましたが、時間の遅延もほとんどなく、予定どおりに移動できました。



バス停留所の案内（上左）／バス停留所の様子（上右）／競技場間などの移動図（下）

## 競技場の様子

1月下旬から2月上旬にかけて、最低気温がマイナス10℃以下という厳しい寒さが続き、その時期に開催された開会式のリハーサル後には、「ラーメンが凍った」、「服をどれだけ着て対策をしても寒さに耐え切れなかったので、途中で帰った」など寒さに関して心配される報道が相次ぎました。しかし、開会式の日から寒さが弱まったことから、強風による被害が一部出た以外は、天候によってもたらされた大きな問題はありませんでした。



虹色にライトアップされた競技場

競技場へは、簡単な手荷物検査とチケットのチェックを受けるだけで入場でき、ここでも至るところに配置されているボランティアスタッフの誘導によりスムーズに席に到着することができました。

また、競技場内に設置された「無料 Wi-Fi」も接続しやすく、動画の送受信ができるほど快適に使用できました。

寒さは和らいでいたものの、スキーなどの室外競技の観戦は寒さを感じるものでしたが、大規模な休憩場やストーブの設置、トイレの暖房など、いつでも暖をとることが可能なほど十分な対策がなされていました。

## 日本の自治体の取り組み

江原道と友好交流提携をしている富山県、長野県、鳥取県の3県合同の広報ブースである「日本広報館」が、江陵駅近くのフェスティバルパーク（江原商品館・K-Mall、2月3日～3月18日）内に設置され、3県の職員や関係団体のスタッフなどがブース運営を行いました。また、クリアソウルからもスタッフとして職員が運営に参加しました。



フェスティバルパークの外観



日本広報館の外観

日本広報館内でパンフレットを手に取る来訪者

ブース内ではポスターの掲示、PR映像の放映、パンフレットの設置を行い、ブースを訪れる方に3県の魅力がPRされていました。

日本広報館がフェスティバルパーク内の動線の一番末端に位置していたこともあって、来訪者数はそれほど多くなく、平日は100名/日程度、祝祭日は200名/日程度の入込でした。また、内訳としては、9割が韓国人、日本人を含む外国人がちらほらという具合で、東京、大阪、北海道、沖縄といった有名観光地について尋ねる声が多く聞かれたほか、日本自体には好意的な反応を見せつつも、上記以外の地方自治体にはピンと来ていない訪問者も多い印象でした。

日本の地方自治体について良く知らない外国人に、少しでもその自治体を知ってもらう機会を設けることができたという意味では意義深いものだと思います。一方、旅行博と違って、スポーツ観戦を目的に来ている人に対して日本の地方自治体をPRすることは非常に難しく、売りとするコンテンツやPR方法に工夫が必要であると感じました。

## 韓国内での盛り上がり

韓国ギャラップが、開幕直前(1月30日~2月1日)

に調査した結果では、「五輪に関心がない」と回答した韓国人が約30%になるなど、開催国としての盛り上がり心配されましたが、いざ競技が始まると、帰省ラッシュで観客が大きく減ると予想された旧正月期間にも多くの観客が競技場を訪問するなど、盛況となりました。五輪には全く興味がないと言っていた知人(韓国人)からも「行ってみたいので、チケットの取り方などを教えて欲しい」と言われるほどでした。

このような韓国内での人気をけん引した一つの要因は「女子カーリング」チームでした。アンギョンソンベ(眼鏡先輩)、ウィソンマヌルソニョ(義城にんにく少女)などの言葉が話題となり、連日ニュース番組で特集されるなど、注目を集めていました。韓国ギャラップが閉幕後(2月27日~28日)に実施した世論調査によると、韓国人が今回の平昌五輪で「最も興味深く見た種目」の1位にカーリング(70%)が選ばれ、韓国内で人気があるスピードスケート(29%)やショートトラック(26%)に大きく差をつける結果となりました。

また、選手の出身地である義城郡(慶尚北道)の特産物であるにんにくが大きく注目されたことから問い合わせが相次ぎました。例えば、あるコンビニでは「義城」や「にんにく」の表記がある商品の売り上げが上がったり、選手が使用している眼鏡店に注文が殺到したりするなどの報道もあり、地方への注目を集め、経済効果も生じました。

## おわりに

平昌冬季五輪の期間中開催地を訪れた観光客は500万人以上で、このうち韓国内からの訪問者は約390万人、外国人観光客は約110万人に達したと発表されました。

他大会との比較などによる世界的な評価は、パラリンピックが閉幕し、実績が整理された後になされると思いますが、3月初旬の時点では、IOCや海外メディアからも高い評価を得ていると報道されています。また、閉会式後(2月27日~28日)に行われた韓国ギャラップの世論調査でも、今回の平昌五輪が「成功だ」と回答した韓国人が80%となったことを鑑みても、「成功」であったといえるのではないのでしょうか。

今後2020年の東京、2022年の北京とアジアでの五輪開催が続きますが、いずれの大会も成功裏に終わり、アジアの平和と発展につながることを期待しています。